

■ 沼津市都市計画マスタープラン・ワークショップ開催報告について

【開催日時】

平成 28 年 8 月 26 日(金) 13:30～16:30 プラサヴェルデ 出席者 55 名 8 グループ
 平成 28 年 8 月 28 日(日) 9:30～12:30 商工会議所 出席者 28 名 4 グループ

【出席者】

① 自治会（18 コミュニティから推薦）	22 名
② 産業界（商工会議所、商工会から推薦）	6 名
③ 専門学校（大原、情報ビジネスから推薦）	16 名
④ 高校生（市立高から推薦）	17 名
⑤ 公募（事業者、子育て世代、福祉関係者など）	22 名

【運 営】

ファシリテーターをコンサルタント、サブファシリテータを市職員で運営

【内 容】

- 1 グループ 7 から 8 人で構成（自治会 2、産業界 1、専門学校 1、高校生 1、公募 2）
- 各グループに 4 つの視点を 1 つずつ割り当て、グループワークを実施
- 現状と課題からどのようにすべきか（対策）をまとめたものをグループごとに発表
 - ・『東名・新東名 I C 周辺における、これからのまちづくり』
 - ・『市民 1 人 1 人や、地域ぐるみで取り組む安全・安心のまちづくり』
 - ・『人が訪れ、留まり、住みたくくなるような魅力的な中心市街地のまちづくり』
 - ・『住み続けられ、また住みたくくなるような生活圏ごとのまちづくり』

【会場風景】



【今後の予定】

9 月に開催する策定委員会に報告

12～1 月のパブリックコメント実施中に、今回の参加者を対象として改定案を説明する予定

■ 沼津市都市計画マスタープラン・ワークショップ意見の都市マス（市政）への反映

資料 1

(1) 安全・安心のまちづくり

	●都市マスに反映 ○他計画で取組中、対応等	取組期間	WS 意見	
			趣旨・概要	意見詳細（○○○：地震対策として出た意見、○○○：津波対策として出た意見）
自助	●P 1「市街地の脆弱性改善（耐震化・不燃化の促進等）」 ●P 4「公共空間の整備・改善の促進」	短期・中期・長期	住宅等の耐震化、 家庭内の地震対策の促進	・自分の家の耐震性能を知る ・耐震工事、家具の配置など ・耐震（家具の固定） ・家具等倒れないように耐震 ・ブロック塀の耐震化 ・家具の固定 ・家具の固定、家具の配置 ・避難路の確保（自身の逃げ道） ・a 1 1 電化、裸火を使用しない ・ガス、電源のスイッチを切る ・家具等の転倒防止 ・崩壊（ブロック塀）の防止工事
	●P 5「災害避難行動計画による減災対策の推進」	短期・中期・長期	災害に係る情報収集、 適切な避難行動の理解促進	・ハザードマップを持つ ・地域の防災上の危険箇所点検、避難経路等防災施設の日頃からの確認 ・避難先を知る（職場等よく過ごす場所） ・町内で安全な所の確保、家族で避難場所を決める ・津波の来る方向を知る（海側からとは限らない） ・経験を生かせるよう知識を身につける ・逃げ道の確保 ・高台へ何分で行けるかを把握 ・町内での高いマンションなどの把握 ・一刻もはやく高台へ逃げる ・山に逃げる 等
	○地域防災計画等で取組中 * 関連P 5「災害避難行動計画による減災対策の推進」	短期・中期・長期	防災意識の高揚	・防災に対する意識を常に持つ ・家庭での模擬訓練 ・防災訓練に参加 ・自主防災会への参加 ・地域及び会社の避難訓練に積極的に参加する ・積極的に防災訓練に参加する ・防災訓練、セミナー、レクチャーに参加するなど防災意識を持つ ・避難時の心得（自分の身は自分で守る等）
			緊急物資の備蓄促進	・非常用食料などの備蓄 ・家族で3日間ののげる程度の備蓄品の準備 ・避難グッズを揃える（非常食糧等） ・防災グッズの準備 ・防火用品の準備 ・避難用品を揃える ・大事なものはまとめて、逃げる時はすぐに持てるようにする ・防災備蓄倉庫の整備（中身の確認）【共助ででた意見】 等
	○地域防災計画等で取組中	短期・中期・長期	災害時の情報伝達力・収集力強化	・情報収集の迅速化（手元にラジオなど） ・情報収集の迅速化（ラジオ等）
共助	●P 2、4「公共空間の整備・改善の促進」	短期・中期・長期	避難路の整備及び安全性向上	・自治会単位での避難路の整備 ・避難所までのルート上の危険箇所の点検
			避難場所の安全性向上	・建物の耐震工事
	●P 5「災害避難行動計画による減災対策の推進」	短期・中期・長期	自主防災組織の活性化、災害時要 支援者の支援体制整備	・自主防災組織の活性化 ・障害者の避難路も考える ・助け合い年齢を広げる ・災害弱者（高齢者・子供）への対策（安否確認） ・近隣の1人暮らしの方の見回り ・若者でボランティアグループを作る ・地域のネットワークを強化する ・援助者の確認 ・弱者への呼び掛け！自分の周辺の人も一緒に ・行政と市民の会議
		短期・中期・長期	防災訓練の充実・強化	・訓練実施 ・避難の仕方、防災訓練はあらゆる被害を想定して行う ・避難路確認 ・防災訓練に真剣に取り組む ・山・崖崩れ等しそうな所の把握 ・地元の危険マップ作り（避難経路の確保） ・訓練をちゃんとして ・地域でハザードマップを確認、訓練 ・日頃から防災意識を持ち続ける
	○地域防災計画等で取組中	短期・中期・長期	孤立地域対策の促進	・孤立化した場合の役割分担 ・孤立化した時の避難場所、備蓄倉庫の整理 ・孤立化した場合の地区住民の役割分担、救急消火・・・
公助	●P 2、4「公共空間の整備・改善の促進」	短期・中期・長期	避難路の整備及び安全性向上	・避難経路の適正な整備（誰もが避難し易い） ・避難地、避難路の準備（アウトドア供用とか！） ・避難所の最寄り化 ・逃げ道ルートに見える化 ・インフラ整備 ・地震に強い道路（ガケ・石垣・橋） ・避難路整備内容を地域で決める ・海岸から高台への避難道を整備（高齢者でもOK、夜間でもOK）等
		短期・中期・長期	避難場所の整備、安全性向上	・海辺に住むお年寄りがすぐ避難できる場所をつくる ・高齢者の方でもスムーズに避難できるようなサポートを充実 ・数多く避難地を作る ・被災者の避難所を確保（耐震化） ・災害後の援助 ・有事の際、地域の物流が断たれてしまう ・多くの人が入れる避難所をつくる ・高い建物をつくる ・避難タワーの増設 ・山と海に挟まれた所は山に避難しても土砂崩れの被害に合わないようにする。 ・土砂崩れの防止について整備 等
	●P 4「海岸や河川の津波防護施設の整備・改良」	短期・中期・長期	防潮堤整備	・津波対策（防波堤を作る） ・防波堤又は堰の建築 ・防波堤の整備 ・防波堤を作る ・堤防または避難道を整備 ・津波防潮堤の整備 ・防波堤の高さまで地面を上げる
	●P 5「災害避難行動計画による減災対策の推進」	短期・中期・長期	災害に係る情報提供、適切な避難 行動の理解促進	・分かり易いハザードマップを作る ・防災の教育を行う ・市民が安心できるわかり易い防災マニュアルの作成 ・バリアフリーな色づかいのマップ ・東日本大震災等の教訓などをまとめた自主防災に役立つ情報 ・定期的に回覧でまわしたり広報で伝えていく ・行政はより多くの防災情報を流す 等
		短期・中期・長期	防災訓練の充実・強化	・防災訓練参をうながす ・訓練を行う
	●P 1 地域の危険度に応じた対策促進	短期・中期・長期	地域の災害に対する危険度に応じた総合的な対策の推進	・重ね合せた被害を公表して総合的対策をとる
	●P 1、4「災害リスクに対する安全確保を目指した土地利用の規制誘導の検討」	短期・中期・長期	災害リスクに応じた土地利用の規制誘導の検討	・企業は南の海の方へ、住宅は山の方へ考える（富士市の様に）
	○地域防災計画等で取組中	短期・中期・長期	災害リスクに対する自助・共助の 取組み支援	・老朽化した建物をそのままにさせない取組み、仕組み ・危険箇所の改良の援助 ・津波シェルターに補助金を出す ・ブロック塀が多いので無くす
		短期・中期・長期	緊急物資の備蓄促進	・避難生活用食料・機材備蓄 ・避難先への物資の確保（現実に見合った物） ・備蓄品の整備

(2) 生活圏のまちづくり（中心市街地と各拠点の連携）

	●都市マスに反映 ○他計画で取組中、対応等	WS 意見		
		趣旨・概要	意見詳細	施策対象
施設・ 機能・ 場づくり	●P 1 6 「利用頻度の高い公共公益施設や日用品販売店等の適切な配置や機能維持」 「少子化で発生する小中学校の空き教室や、人口減少で発生する空き家を転用するなど、福祉サービスを充実」 ●中心市街地のまちづくりにも反映予定	身近な公共サービス、生活利便施設の確保	・徒歩圏内である程度の生活がまかなえる ・買物近くで出来る（日常生活維持） ・近所の買い物ができる店（または移動販売） ・公共サービスの充実 ・買い物（スーパー）、病院等が近い場所にある ・ゴミ集積所を近くにする ・衣食住（介護施設含めた） ・生活に必要な公共サービス	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
		子育て環境の充実	・保育所の充実 ・子育て支援の充実（制度・施設） ・他地域とくらべて差のある子育て世代への優遇 ・子供や子育て世代が安心してすごせる公園の設置	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
		専門・高等教育の場充実	・多種多様な学校 ・魅力のある施設・大学等 ・（東海大学がなくなり）大学が必要 ・大学、短大、専門学校	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
		医療・福祉施設の充実	・病院（介護施設） ・医療モール ・医療施設 ・市街地や駅から離れてどこでも病院を増やす ・高齢者施設 ・老人ホーム ・福祉施設	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
		商業環境の充実	・スーパー等 ・静岡を基にショッピングモール ・大型商業施設 ・大型ショッピングモール 等	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
	●P 1 6「生活利便性を確保しつつ、地域の立地特性や地域資源を活かした個性の異なる魅力的な生活圏のまちづくりを推進」 ●中心市街地のまちづくりにも反映予定	世代ごとのニーズにあった多様な居場所づくり	・高齢者の居場所の充実 ・休憩所（座って話せる場） ・自主表現する場 ・子供・孫と暮らせる環境 ・高齢者だけで暮らすことのない様に若い世代が暮らしつづけられる街にする ・おしゃれな店や飲食店がある ・人気スポット ・若者が遊ぶ場所 ・1 日遊べるような施設を作る ・買い物客の遊べる場所が欲しい ・アミューズメントパーク ・流行の物、服、物等 ・東京で言う渋谷、原宿を作る ・遊園地などのレジャー施設 ・コンサート会場をつくる	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
		企業誘致等による雇用の創出	・職場 ・働ける場所を作る ・雇用等の仕事場所 ・仕事 ・魅力のある企業を沼津へ ・活気のある働き場所 ・企業誘致 ・大手企業 ・外から見て働きたくなるような就職先が欲しい 等	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
	●P 1 ～「視点 2 安全・安心のまちづくり」で取組み	安全・安心な住環境整備	・住宅地 ・土地開発 ・災害対策 ・災害対策をしっかりとてる	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
交通手段	●P 1 6 「高齢者等の移動手段として、公共交通の充実」	公共交通の利便性向上 ・路線、運行便数の充実 ・のりあいタクシー等の導入 ・乗りやすい料金設定	・交通手段 ・のりあいタクシー ・小型バス ・バス・電車の充実 ・路線バスの増（公共交通） ・交通の利便性 ・（安い）公共交通機関の充実、バス等 ・車の運転ができない年齢となった場合ワンコインバス等の充実が必要かと思う ・駅から離れて所での交通機関（電車かバス等）もっとスムーズに ・交通手段を増やしてほしい ・公共交通機関 ・交通手段（都市部・周辺部） ・場所・交通手段のマップ？ ・都会に行き来しやすいようにバスを増やす ・電車の本数を増やしてほしい	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
コミュニティ	●P 1 6 「豊かなコミュニティのある生活圏の形成を目指します」	地域ごと、世代ごと等、多様なコミュニティの形成	・高齢者への見守りができる自治会活動 ・小地域ネットワーク活動の充実 ・地域のネットワーク ・コミュニティ対策 ・近所同士の日常的な助け合い ・認知症や介護になっても自宅で暮らし続けられる地域力 ・部活動が活発に（学校の特徴） ・中高～大生のコミュニテグループの形成 ・隣組の助け合い（相互支援） ・実力・実行力のあるリーダー（人材） ・沼津の美味しいものを食べれる会を月一プレゼント（コミュニティの）形成	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
	○行政、地域（地区のコミュニティ推進委員会等）の協働により、取組み中	イベント等による交流の機会の創出	・子供や高齢者対象以外の企画など（イベント） ・集まり場所、イベントづくり ・住んで楽しい街になるようなイベント等充実 ・大型のイベント、音楽やゲーム等	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
その他	○若者世代住宅取得促進事業等による住宅支援を実施中	社会保障費軽減等の行政支援	・行政の補助 ・行政支援 ・高齢者住宅や交通費等の行政の補助など ・子供が生まれた時にもらえる祝い金などの充実 ・子育て世代への行政のバックアップ、医療費や保険料など、学費・医療費の無料化 ・子育て支援 ・移住をするための助成金などを充実させる ・保険料ただ ・税金が安い ・他地域とくらべての優遇	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者
	○ぬまづの宝推進課や観光協会等が協力し、ぬまづの宝 1 0 0 選等を広報中	地域特性の P R 等	・施設がキレイだったり制服がかわいかったり（学校の特徴） ・メディアなどの広報、市の宣伝に力を入れる ・沼津の有名な食べ物を集結	高齢者 ・ 子育て世代 ・ 移住者